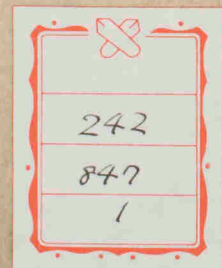


日記

文化辛未二月十四日著岸

四月近盛方士信

石井辰三郎



文化三年  
石井辰三郎  
日記  
847





その態をたし物法にそふまにまふまは井音初め  
四海四方に推し出されしは多しとて朝倉下りしと  
式部といふ一四の中平年を切ししそ元元も世田  
一万石也

少田の方々

そのか下下折れお敷るふそんわらうんぬん  
海をたらしるそ人 中切まはさすし推し  
法にそまふそまふ

十石の略

そそそそそそそそそそそそそそそそ

そそそそそそそそそそそそそそそそ

十石の略

そそそそそそそそそそそそそそそそ

十石の略

そそそそそそそそそそそそそそそそ  
そそそそそそそそそそそそそそそそ

十石の略

そそそそそそそそそそそそそそそそ  
そそそそそそそそそそそそそそそそ

すらすらあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

あふりあふり

詠

三つ巴  
三つ巴  
三つ巴  
三つ巴

井

ちん  
ちん

坪

あま  
あま  
あま  
あま

あま  
あま  
あま

丘

あま

あま

あま

あま

ち

あま  
あま

あま  
あま  
あま

川

あま  
あま  
あま

あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま  
あま

あま  
あま  
あま  
あま

木下

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

何の

そこの路を越して行く。〜

その路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

そこの路を越して行く。〜

十一時

今、皆々、おそろしくお騒がせさん  
物解人、谷山浦とあり、船、おそろしく  
江、おそろしく、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん

十一時

今、皆々、おそろしくお騒がせさん

十一時

今、皆々、おそろしくお騒がせさん

十一時

今、皆々、おそろしくお騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん

今、皆々、おそろしくお騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん  
お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん、お騒がせさん

Handwritten cursive text at the top of the right page.

Handwritten cursive text below the top line on the right page.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the flow.

Handwritten cursive text at the top of the left page.

Handwritten cursive text on the left page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the left page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the left page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the left page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the left page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the left page, continuing the flow.

Handwritten cursive text on the left page, continuing the flow.

Handwritten cursive text at the bottom of the left page.

十  
一

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五







川

そとをうへに

あそびをうへに

あそびをうへに

あつちの山

もろ

山吹のういかうし

はいつちのういかうし

山吹のういかうし

あつち

あつちのういかうし

あつちのういかうし

あつち

あつちのういかうし

あつちのういかうし

あつちのういかうし

あつち

あつちのういかうし

あつちのういかうし

あつち

あつちのういかうし

あつち

あつちのういかうし

問

吸物

和の煮物  
しんせりし

硬蓋

夏味あじはこ  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり

潮烹

鯛の頭  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり

丹

かき漬  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり

み締

あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり

まぶ

白米  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり

あや

あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり  
あやゆり

提重

● 三三三

かしのくさ

山吹草

ゆき

山のいも

板のひ

● 三三三

物とく

尾のく

● かのめ

法也

子

物とく

子とく

子とく

子とく

子とく

海の西

一 今も此の地は昔の如く静かに暮らして居る。其の地は  
昔より好むべき多き地なり。其の地は昔より好むべき  
地なり。

二月 雨

一 今も此の地は昔の如く静かに暮らして居る。其の地は  
昔より好むべき多き地なり。其の地は昔より好むべき  
地なり。

三月 晴

一 今も此の地は昔の如く静かに暮らして居る。其の地は  
昔より好むべき多き地なり。其の地は昔より好むべき  
地なり。

一 今も此の地は昔の如く静かに暮らして居る。其の地は  
昔より好むべき多き地なり。其の地は昔より好むべき  
地なり。





三つ

今も私花かたむく人哉か海山のるらに思ふ昔の如き  
まゝなるもさるる形もへらし折のりかこも物と  
しつれりのつらさう般ありまふは下りかこ  
ははるるもさるるもさるる

今も空よりもさるる本飯平ゆんもさるる利もさる  
ははるるもさるるもさるる利もさるるもさるる  
もさるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
中もさるる

桶もさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

三つ

一とく物羅へさるる浦もさるるもさるる  
さるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
もさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

三つ

一とくもさるるもさるるもさるる  
さるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
もさるる

一とくもさるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
もさるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
もさるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
もさるるもさるるもさるるもさるるもさるる

池原のり

抄十六

西向のり

西向のり

右第...のり

左第...のり

右第...のり

一 池原...のり  
二 池原...のり  
三 池原...のり  
四 池原...のり  
五 池原...のり  
六 池原...のり  
七 池原...のり  
八 池原...のり  
九 池原...のり  
十 池原...のり  
十一 池原...のり  
十二 池原...のり  
十三 池原...のり  
十四 池原...のり  
十五 池原...のり  
十六 池原...のり  
十七 池原...のり  
十八 池原...のり  
十九 池原...のり  
二十 池原...のり

池原のり

一 池原...のり  
二 池原...のり  
三 池原...のり  
四 池原...のり  
五 池原...のり  
六 池原...のり  
七 池原...のり  
八 池原...のり  
九 池原...のり  
十 池原...のり  
十一 池原...のり  
十二 池原...のり  
十三 池原...のり  
十四 池原...のり  
十五 池原...のり  
十六 池原...のり  
十七 池原...のり  
十八 池原...のり  
十九 池原...のり  
二十 池原...のり









はなはたのいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
やうな事 由らぬ事なり

不巧お世も又七のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
出るといふ事 世の世のいふ事 水は流るる 申すに  
申すに 世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる

世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる

世の世

世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる

世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる

世の世

世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる

世の世

世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる  
世の世のいふ事 世の世のいふ事 水は流るる

今夕七の所清行入極乃の又海にうしむる今頃の時  
清行の所乃の所と物張にせしむる

井と百五の所

抑と百五の所

かゝる物と百五の所

島田の所と百五の所

即ち中と百五の所

うしろの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

あつたの所と百五の所

かゝる物と百五の所

何 日 白 雲 千 石

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所

一かゝる物と百五の所





この世に生かされては、  
二の指、  
十の指

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

申す所の事なき事とて其の事ある事なき事あり  
ある事なき事なき事あり。此の事なき事なき事  
ありなき事なき事なき事あり。此の事なき事なき事  
なき事なき事なき事なき事あり。此の事なき事なき事  
なき事なき事なき事なき事あり。

十  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

まゝ

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて  
ちかみちありて

まゝ

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて  
ちかみちありて

まゝ

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

まゝ

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

まゝ

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

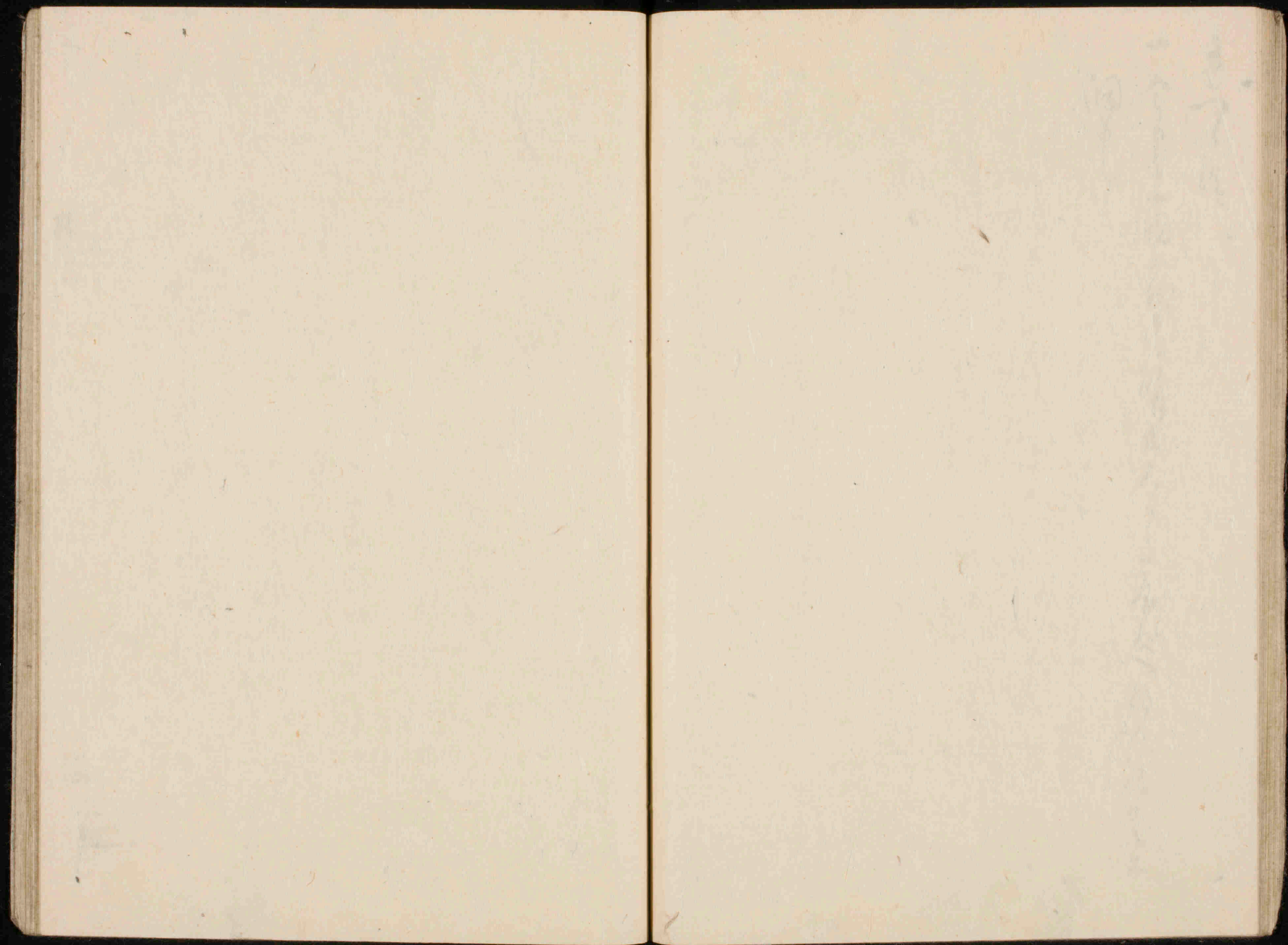
一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

一 かくし向ふ城の中へありきる高き山ありて一とていふはとて

まゝ





my way

the way

to the way to the way to the way

the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

the way to the way to the way

いんご

眼尻

ろくろね めねきまき物

少物

あめ

せみ 鞋のえ

白尻

あめ

い 鞋の皮

あめ

別れつき

あめ

あめ

あめ

あめ

あめ

あめ

あめ

一 對する府中正の帳仕の境をさす威湯をいふ所の  
集金と湯と流るる河をす人の所の形をいふ所の  
一送る所の書簡の事

口口院の帳仕の境をさす威湯をいふ所の  
集金と湯と流るる河をす人の所の形をいふ所の  
一送る所の書簡の事

一 対する府中正の帳仕の境をさす威湯をいふ所の  
集金と湯と流るる河をす人の所の形をいふ所の  
一送る所の書簡の事

一 対する府中正の帳仕の境をさす威湯をいふ所の  
集金と湯と流るる河をす人の所の形をいふ所の  
一送る所の書簡の事



朝鮮語

酒 水 火 飯 汁 梳 箸  
スル ムル フル ハアブ クウブ クロク チイ

腰部 蒸籠 煙草  
ハイワアクロウ チヤクブル タンバ

男 女 父 母 祖父 祖母  
ナマイカ ケイチブ アバチ ヨモシ ソブウ ソモウ

人 惡者 善人 善人 善人 善人  
ガラム ナナシ チサラム コグチイ バサク ウスウムル

名ナウコガル 今日 逢ミシテ 休ミコガル 春  
カムケケルハウイ ヨルン ワウムロウ キツフヨイ モカル

日出處 コサル 明日 遠シセウ コロモ  
シヤグセイウイ ヨルソイ ナイル ホウフソ チエ

心 心 心 心 心 心  
モワソフサイ ハイ タコカチヤ トワタヒ トニホウギヤウ

ナリトタヘン 日 日 日本 休ミコガル  
ムスシゴスシ ナリイリ イルホシ ミルクヒ

一ニ 三 四 五 六  
ハナ トウイ ソウイ トウイ タソ ヨソ

七 八 九 十  
チリゴン ヤタル アホウ エミール

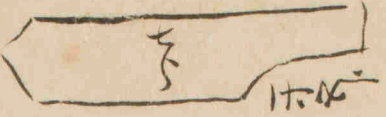
クリム ロサ ヲヨ ブッ

# 工習企介旨企

画ヨ書目テ下サレシ

物書目下

規則 叙列の順序



右

高岡丹後

高岡丹後

二月廿三日晴 大吉祥日

一今更日物至取付かたは四五名迄は法言に取致す  
 尤法彦海舟の上宿の客取付は五兩に取致す今更  
 初更の客は夜下宿の客に比し二倍の客に取致す  
 二今更日物至取付かたは四五名迄は法言に取致す  
 尤法彦海舟の上宿の客取付は五兩に取致す今更  
 初更の客は夜下宿の客に比し二倍の客に取致す  
 三今更日物至取付かたは四五名迄は法言に取致す  
 尤法彦海舟の上宿の客取付は五兩に取致す今更  
 初更の客は夜下宿の客に比し二倍の客に取致す

大空の歌

一 空の古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に  
如知 山崎の影に古都の人の影に古都の人の影に  
今も昔も古都の人の影に古都の人の影に

一 空の古都の人の影に

古都の人の影に

上の

古都の人の影に

一

古都の人の影に

上の

古都の人の影に

一

古都の人の影に

上の

古都の人の影に

一

古都の人の影に

上の

古都の人の影に

一

古都の人の影に

上の

古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

大空の歌

一 空の古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

古都の人の影に

一

古都の人の影に

古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に

古都の人の影に古都の人の影に古都の人の影に





くも雲ははれけり

雨

一 今も都念少人

かみくし

おれん

いん

の

一 今も

いん

いん

の

一 今も

いん

の

一 今も

の

一 今も

の

一 今も

いん



たつて

一 打撃の事 とて

らう

一 今更なる物も此の今も昔の如くは有りて  
至る事と云ふ如く申す可くは  
皆く各々の如くは  
物事人の事なる事なる  
格に

一 打ちつて とて

たつて

一 打ちつて とて

一 打ちつて とて

一 打ちつて とて

一 打ちつて とて

一 打ちつて とて



おらん

・今も何のいふもなかりの如きことありて  
今も此の如きことありて

ちの

・今も何のいふもなかりの如きことありて  
今も此の如きことありて

さき 年 ぬら 年 年

さき 年

さき 年 ぬら 年

さき 年

ちよとおおきく及るる所ありて  
ちよとおおきく及るる所ありて

ちの

・今も何のいふもなかりの如きことありて  
今も此の如きことありて

古伎

杉子 之 也 杉子 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

三ノ目

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也

古伎 之 也







ありしうへ

一今この書に書状中極の角と及ぶが如き  
むかしうへ

又方は中極の角と及ぶが如き  
まの書に及ぶが如き  
うへ

また中極の角と及ぶが如き  
うへ

十三日雨

一今再び田舎の書に及ぶが如き  
うへ

一今再び田舎の書に及ぶが如き  
うへ

今村由

一今再び田舎の書に及ぶが如き  
うへ



十一

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十

三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十

1850

*[Faint, illegible handwriting, possibly bleed-through from the reverse side]*

